

第2章 課題の分析

2-1. 明和町の現状

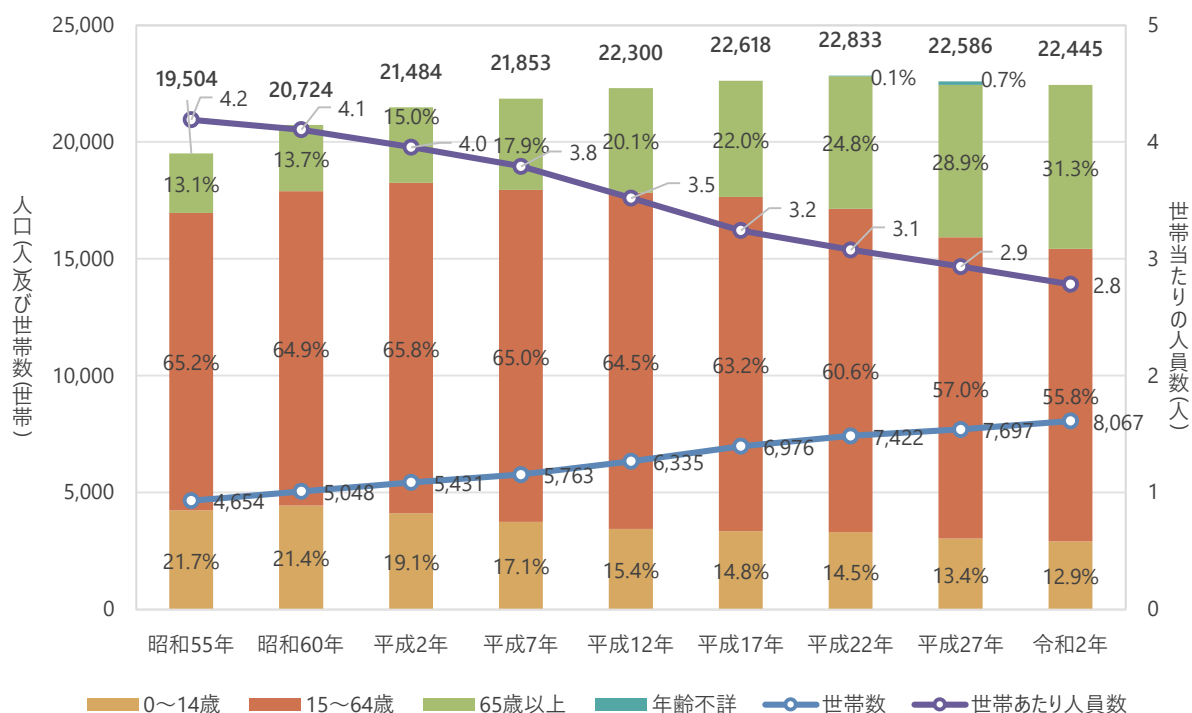
(1) 人口

1) 総人口・年齢別人口の推移

国勢調査による人口動向をみると、総人口は平成 22(2010)年をピークに減少に転じ、令和 2 (2020)年は 22,445 人となっています。年齢 3 区分別の人口割合では、老年人口（65 歳以上）が増加し続けており、令和 2 (2020)年には 31.3%に達しています。

一方で生産年齢人口の 15～64 歳は、年々減少傾向にあり、令和 2(2020)年には、全体の 55.8%となっています。同様に、若年層人口の 0～14 歳も年々減少傾向にあります。

世帯数についてみると、年々増加傾向にありますが、世帯当たりの人員数は、年々減少傾向にあります。

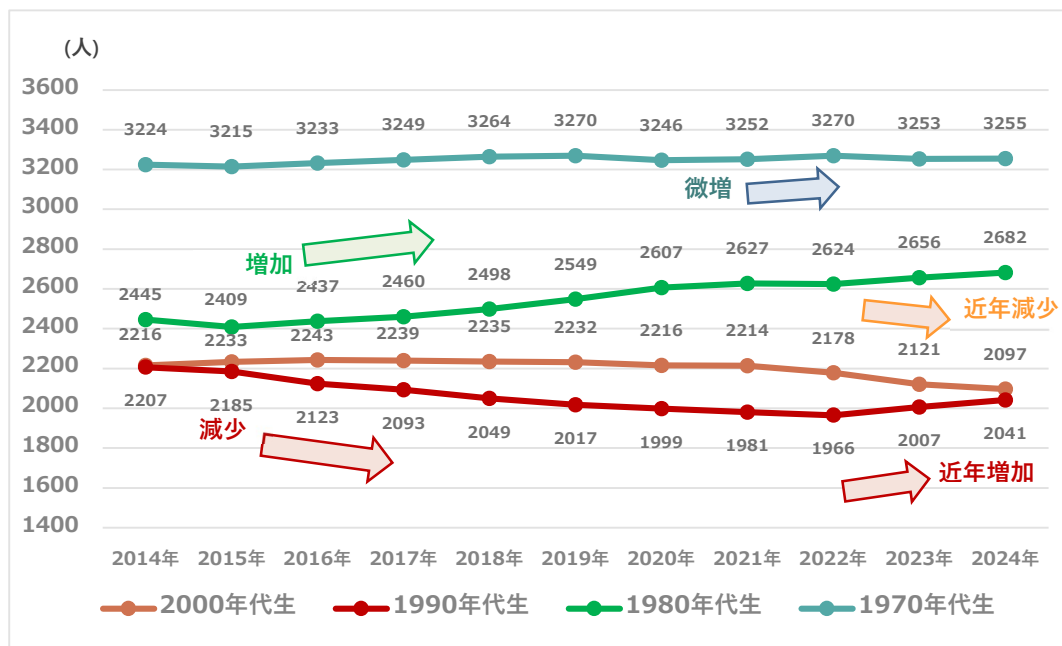


資料：令和 2 年国勢調査

図 2-1 明和町の人口推移

町民の生まれた年代に着目して人口動態を見ると、1980年代生まれ（現在36～46歳）の人口が増加傾向です。また、1990年代生まれ（現在26～36歳）の人口が2022年まで減少傾向から一転増加に転じています。

前後の年代の人口動態から判断して、進学や就職の世代が転出し、子育ての世代が転入していると考えられます。



資料：明和町住民基本台帳

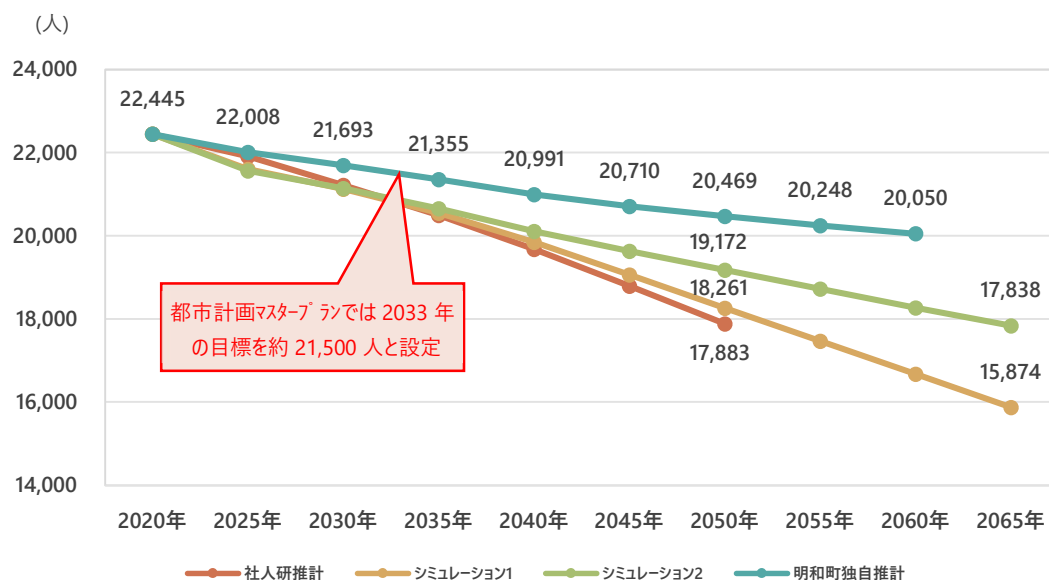
図 2-2 明和町の生年代別人口の推移

2) 将来人口の推計

まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの総人口の将来推計によると、いずれの検証方法においても、今後も人口が減少していく見通しです。

国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研と呼ぶ)による令和 5(2023)年の推計では、2040 年に 2 万人を下回り、2050 年の人口は、17,883 人と予想されています。将来人口では、現在の傾向が継続すると想定した場合(シミュレーション 1)では、さらに少子高齢化が進行し、2040 年に総人口が 2 万人を下回ると推定されています。また、人口を長期的に一定に保てると推定した場合(シミュレーション 2)では、社人研推計及びシミュレーション 1 より、人口減少は緩やかで 2045 年に 2 万人を下回ると推定されています。明和町独自推計では、さらに人口減少は緩やかで、2060 年においても人口が 2 万人を上回るとしています。

明和町都市計画マスタープランでは、明和町独自推計に基づき、令和 15(2033)年の目標を約 21,500 人と設定しています。



資料：明和町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

図 2-3 人口の将来推計

表 2-1 人口の将来推計の検証方法

検証方法	自然増減	社会増減
社人研推計	現在の傾向が継続	現在の傾向が継続
シミュレーション 1	合計特殊出生率が人口置換水準(人口を長期的に一定に保てる水準)の 2.1 まで上昇	現在の傾向が継続
シミュレーション 2	合計特殊出生率が人口置換水準(人口を長期的に一定に保てる水準)の 2.1 まで上昇	人口移動が転入・転出数が同数となり、移動が 0 人
明和町独自推計	合計特殊出生率が人口置換水準(人口を長期的に一定に保てる水準)の 2.1 まで上昇	毎年 70 人の社会増

国土技術政策総合研究所(以下、「国総研」という。)による将来人口・世帯予測ツール、国勢調査データを用いて、将来人口を算出しました。100m メッシュ単位の予測をもとに、令和 2(2020) 年を基準とした人口は、町の端の地域から徐々に人口が減少し、人口が集中している明和町役場などがある中心部に集中すると予測されています。

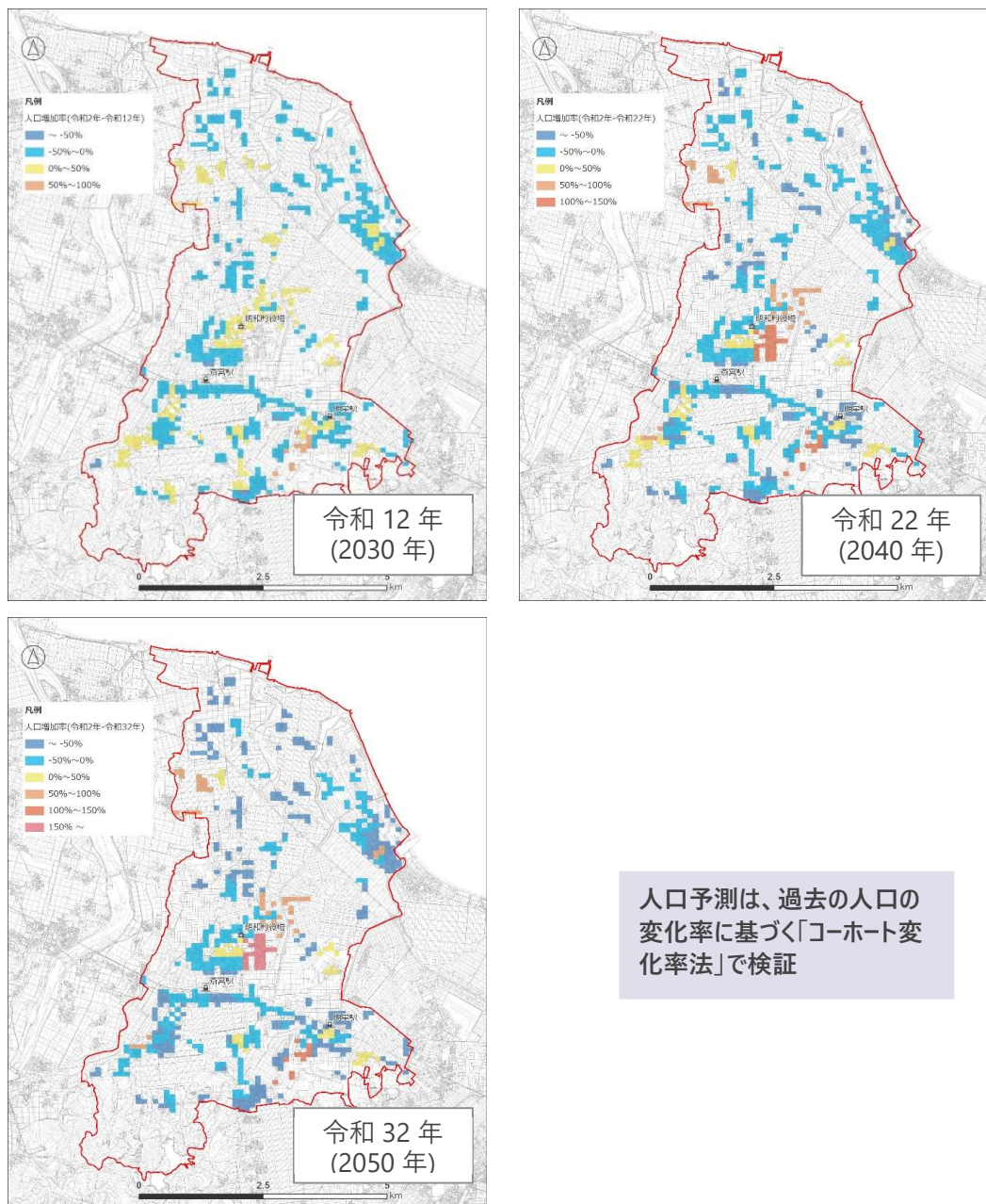
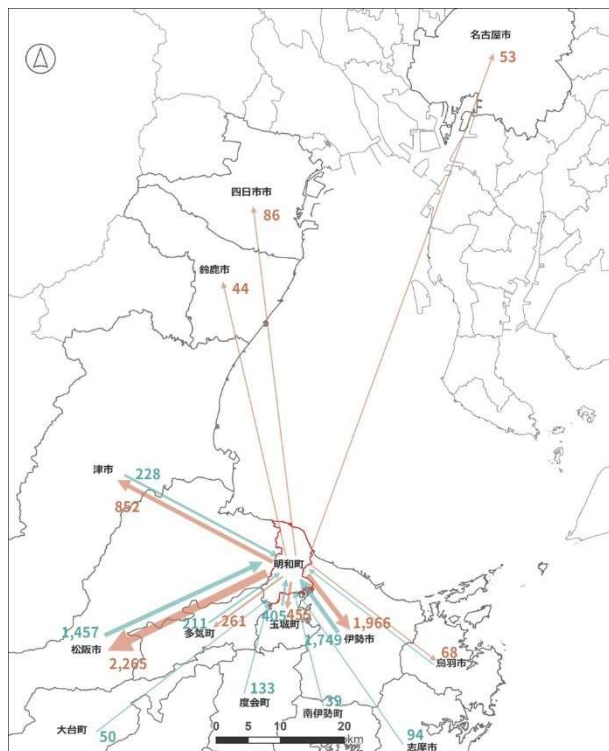


図 2-4 年代の将来人口の増加率

3) 通勤・通学の流動人口

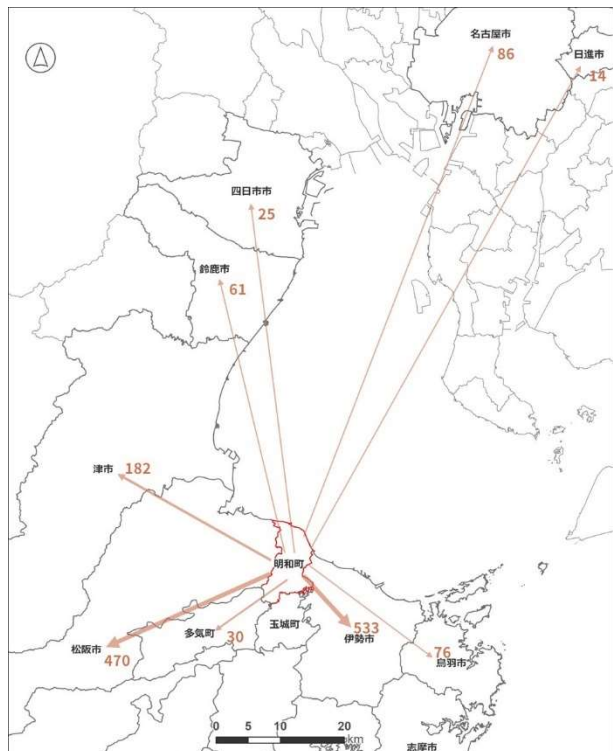
通勤流動において、流入・流出共に松阪市、伊勢市が多く、流出では、津市が次いで多いです。また、名古屋市といった県外への通勤も見られます。一方、流入では、伊勢志摩地域の市町からの流入が見てとれます。

通勤・通学流動においては、明和町内に高等学校が存在しないため、近隣の松阪市、伊勢市を中心に、一方的に流出が発生している状況です。



資料：令和2年度国勢調査

図 2-5 明和町における通勤の流入・流出人口



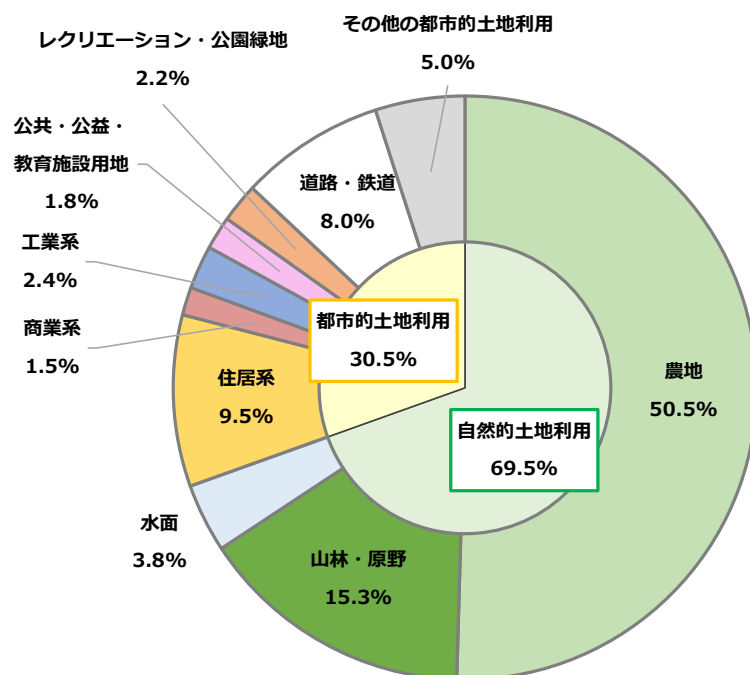
資料：令和2年度国勢調査

図 2-6 明和町における通学の流出人口

(2) 土地利用及び住居

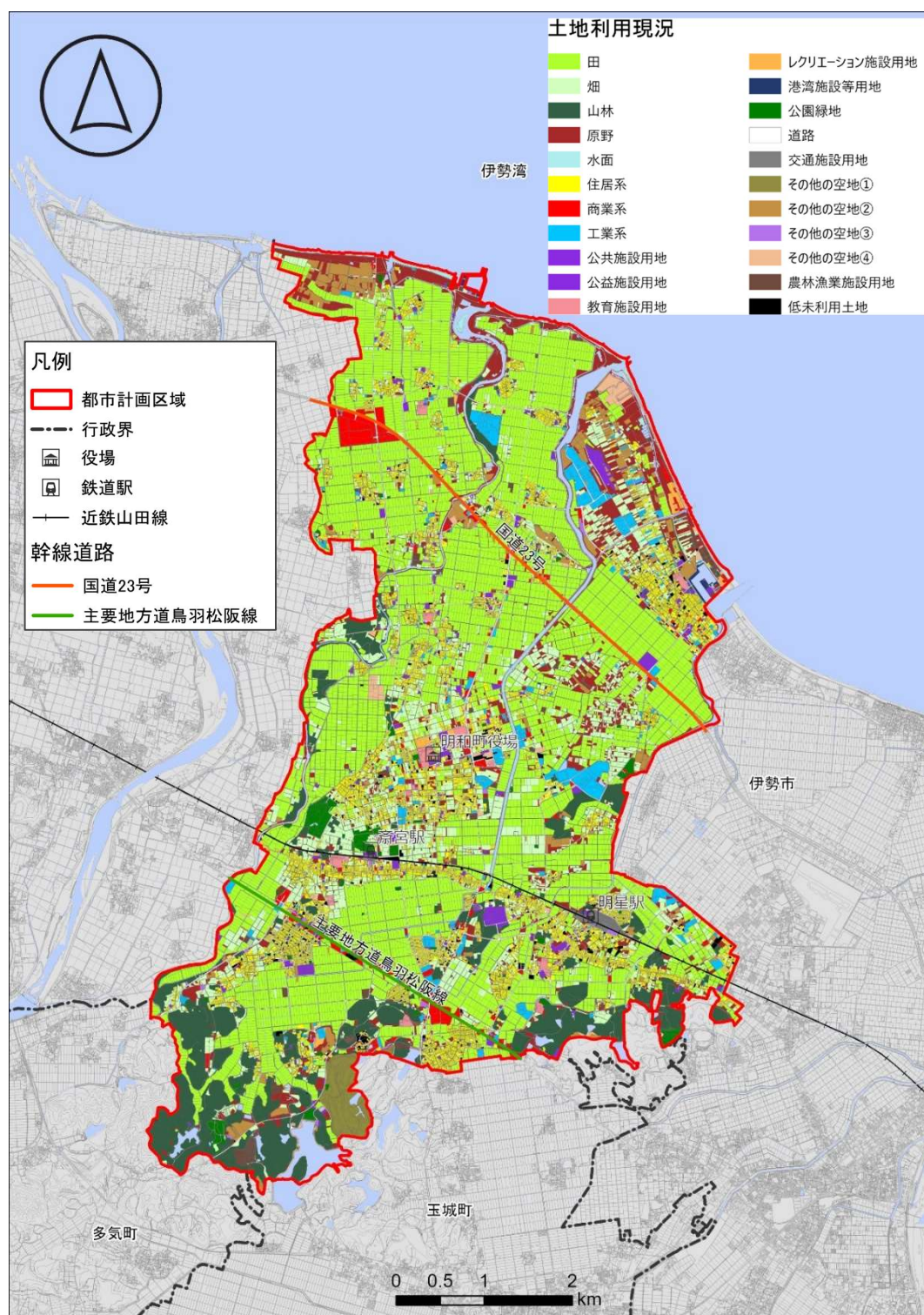
1) 土地利用現況

全地域の土地利用現況を見ると、農地を主とする自然的土地利用が約70%、住居などの都市的土地利用が約30%を占めており、自然豊かな都市であるといえます。店舗などの商業系土地利用は、一般国道23号や主要地方道鳥羽松阪線沿道に集中しています。



出典：令和6年度都市計画基礎調査

図 2-7 土地利用現況

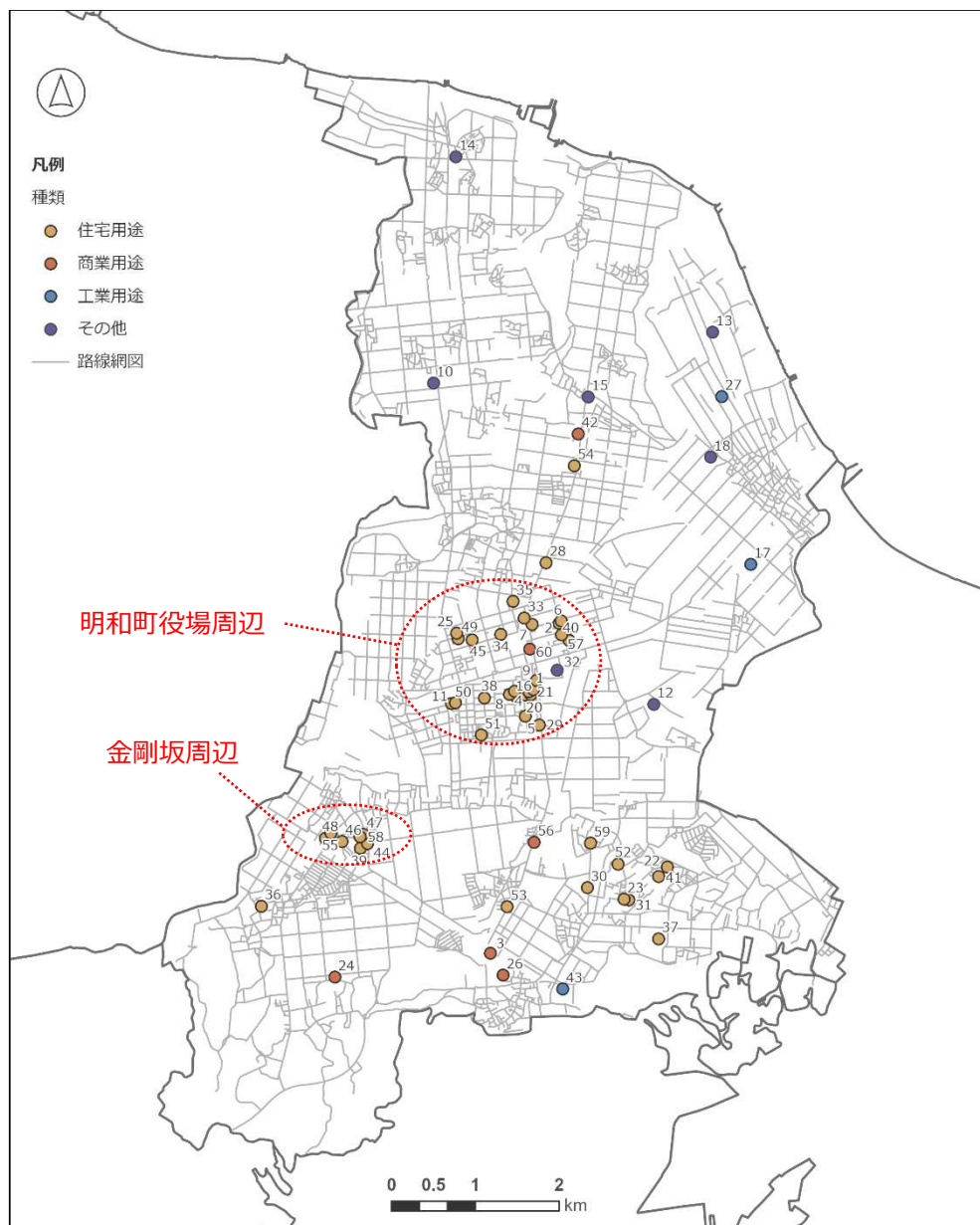


資料：令和6年都市計画基礎調査

図2-8 土地利用現況図

2) 宅地開発状況

明和町における宅地開発は、平成 28(2016)年度から令和 2(2020)年度までに 60 事業が実施され、約 22.8ha が整備されました。開発場所は、明和町役場や金剛坂周辺に集中しています。



出典：令和 3 年都市計画基礎調査

図 2-9 開発状況

3) 特定用途制限地域

明和町（明和都市計画区域）は都市計画法で区域区分を定めておらず、全地域が用途地域を定めていない、いわゆる白地地域です。一方で、土地利用の規制・誘導を目的として、平成27(2015)年に、町全域に「特定用途制限地域」を定め、主に商業施設や工業施設に対して立地を制限しています。特定用途制限地域の指定により、周辺に悪影響を及ぼすおそれのある工場や娯楽施設などの立地が抑制される一方で、都市基盤の整備が進んでいない地域での住宅などの立地が進み、排水施設への負荷が懸念されています。

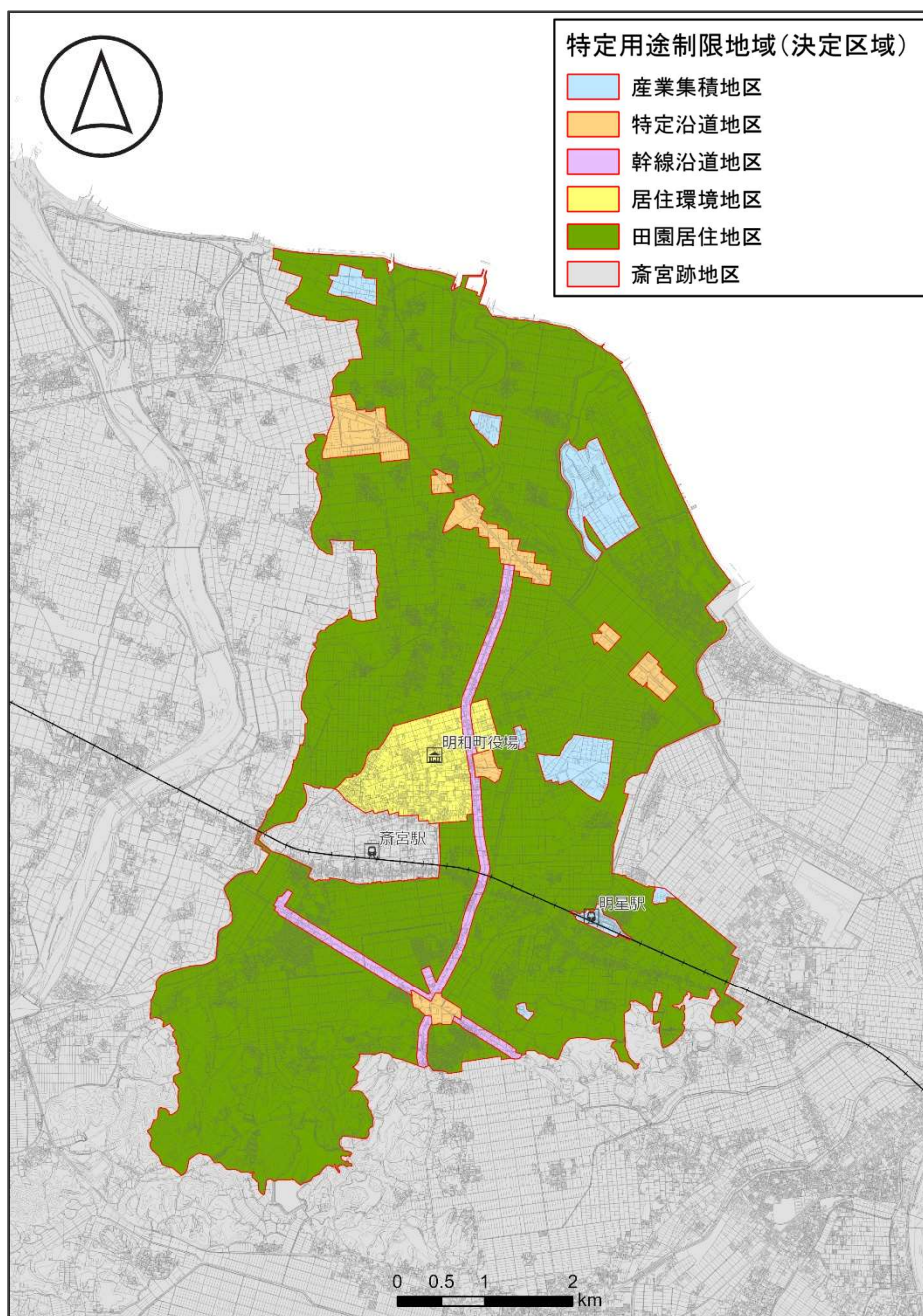
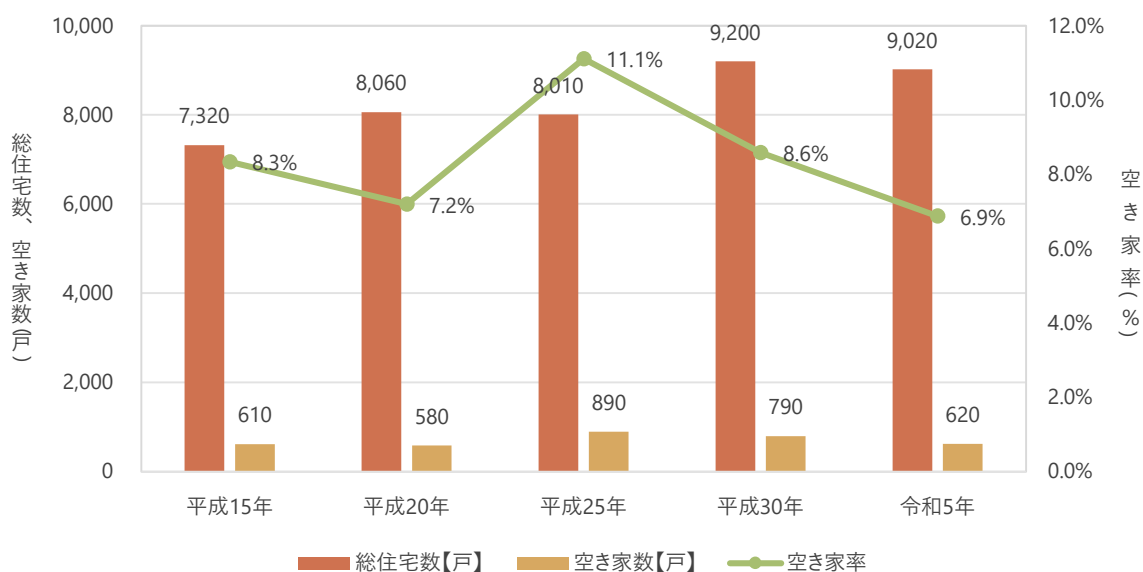


図 2-10 明和都市計画区域特定用途制限地域図

4) 住宅、空き家の推移

住宅戸数は、平成 30(2018)年は約 9,200 戸で、令和 5 (2023)年は約 9,020 戸となっています。

空き家数は、平成 25(2013)年には約 890 戸でしたが、その後減少傾向で推移しており、令和 5 年には約 620 戸まで減少しています。空き家率は減少傾向で、平成 25 年に 11.1%でしたが、令和 5 年には 6.9%まで減少しています。また、空き家の所在については、地区による大きな偏りはなく、分散しています。



資料：住宅・土地統計調査

図 2-11 住宅、空き家の推移

(3) 交通

1) バス

民間バス事業者による路線バスはありませんが、明和町が運営する町民バスが、町内の駅・大型商業施設・病院・集落を巡回する4ルート運行しています。このほか、大淀地区には伊勢市コミュニティバス「おかげバス」が乗り入れています。

令和4(2022)年秋から約1年間、三重トヨタ自動車によるデマンド型交通「チョイソコめいひめ」の実証実験を行い、現在は本格運行しています。

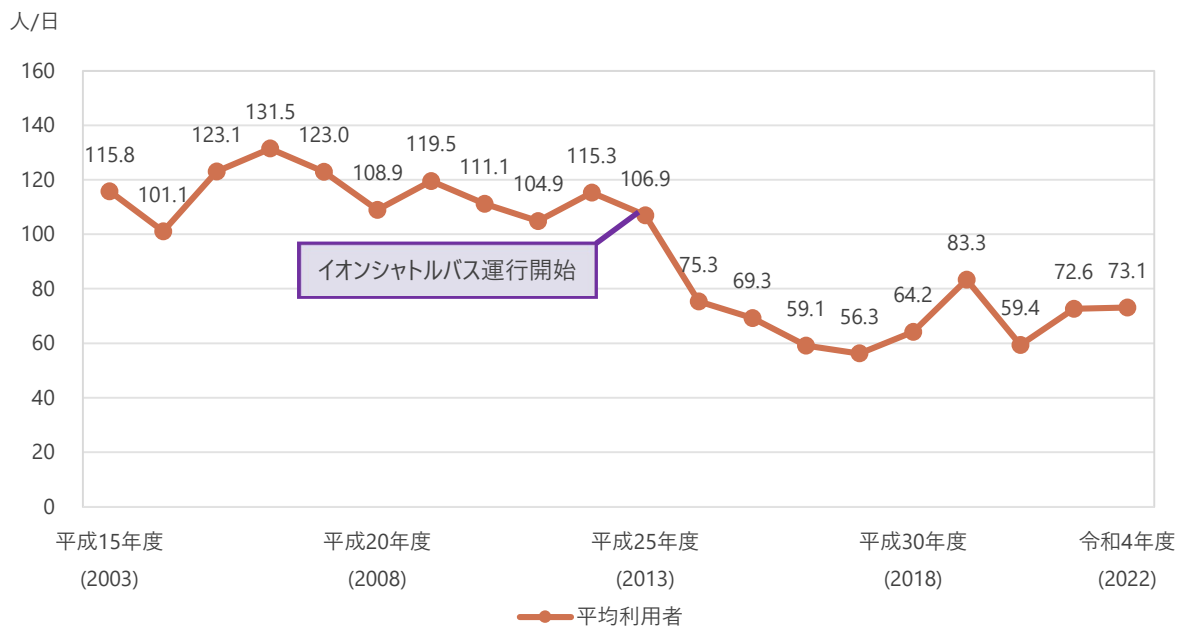
表 2-2 明和町の公共交通（路線バス及びデマンド型交通）

項目	町民バス	おかげバス※ (伊勢市)	チョイソコ めいひめ
運行形態	定時定路線	定時定路線	デマンド
運行日	毎日	毎日	月～土曜日
運行時間帯	7時台～17時台	7時台～18時台	8:30～17:00
乗降場所	88箇所	3箇所	約190箇所
会員登録	不必要	不必要	必要
予約	不必要	不必要	必要
運賃	100円/回	200円/回 (ICカード等の割引あり)	300円/回
年齢制限	無し	無し	18歳以下、65歳以上
運営主体	明和町	伊勢市	三重トヨタ自動車
運行事業者	アケミ交通	三重交通	明和タクシー アケミ交通

※) 「おかげバス」の情報は、明和町該当部分のみ
出典：各運営主体ホームページ

① 町民バス

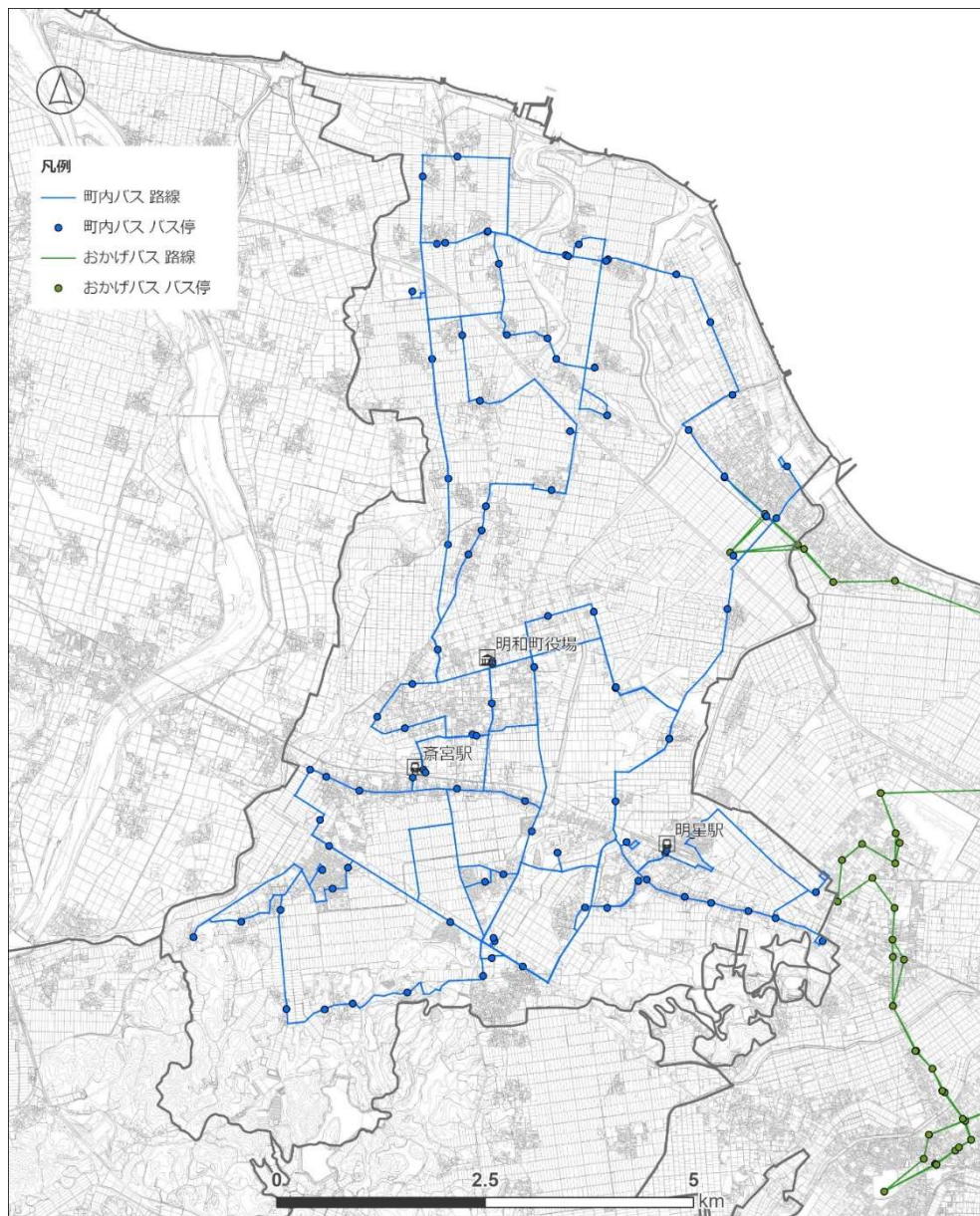
明和町内を巡回する町民バスの利用者数は減少傾向にあります。特に、イオンモール明和の無料シャトルバス(明星駅から運行、令和6年に廃止)の運行を開始した平成25(2013)年度以降は、令和元(2019)年を除き、1日50人から70人の間を推移しています。



出典：明和町地域公共交通計画

図 2-12 町民バス利用者数の推移

明和町内におけるバス路線は、以下の通りです。



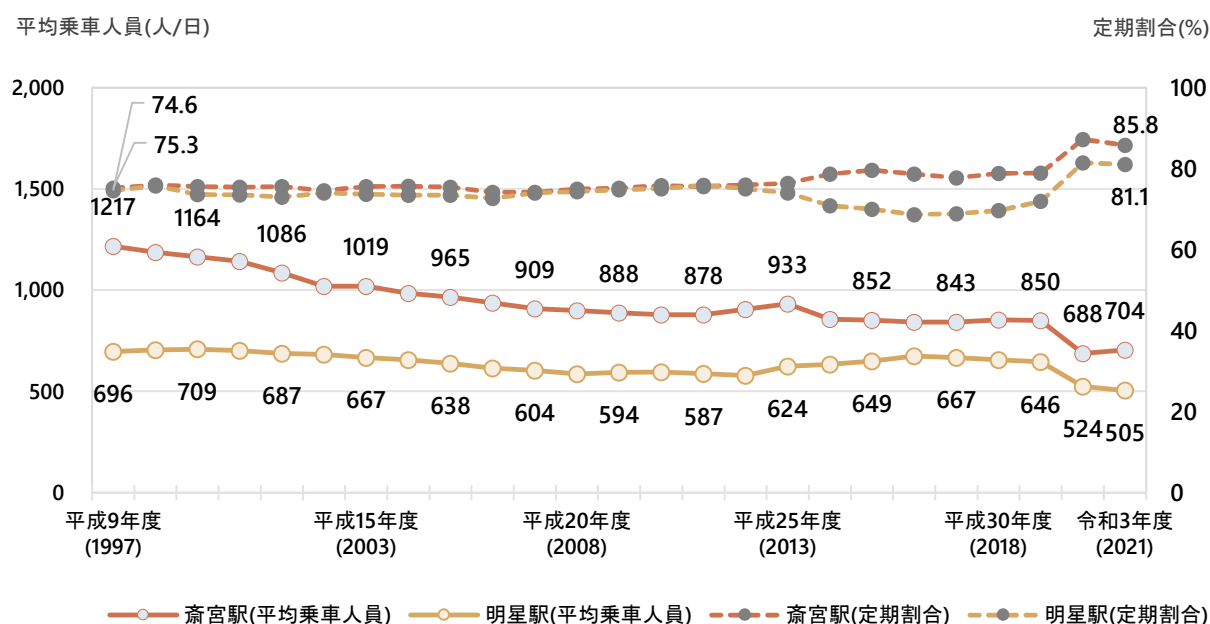
資料：GTFS データリポジトリ

図 2-13 町内バス路線図

2) 鉄道

明和町の南部を近鉄山田線が横断しており、南西部に斎宮駅、南東部に明星駅が設置されています。斎宮駅・明星駅ともに、普通列車のみ停車し、昼間は概ね1時間に2本運行しています。利用者は減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった令和2(2020)年度は大きく減少し、その後は横ばいになっています。

一方で、利用者の定期割合は、新型コロナウイルス感染症の流行で定期外利用が減少した影響で、令和2(2020)年度以降は高くなっています。



資料：三重県統計書

図 2-14 斎宮駅及び明星駅の利用者数



近鉄山田線普通列車

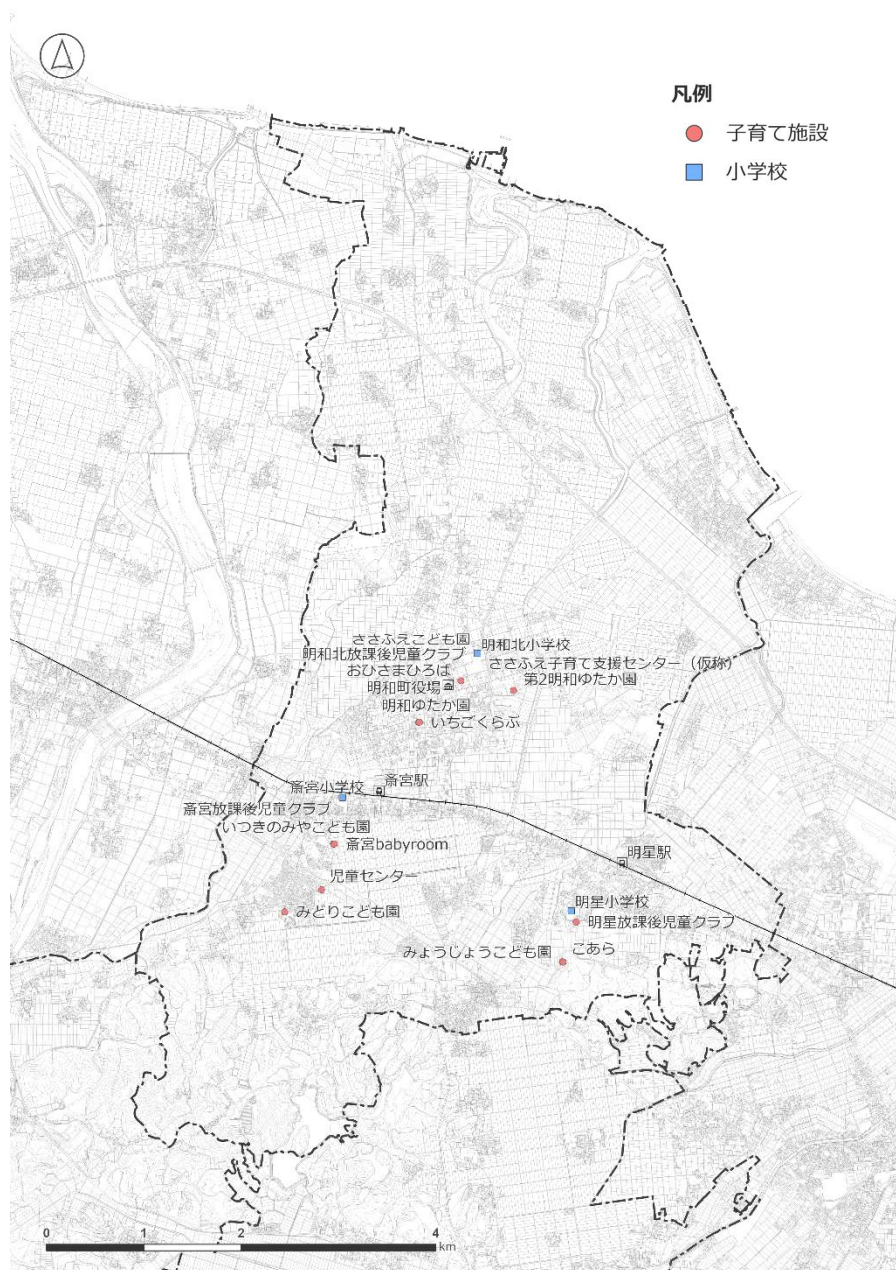


町民バス

(4) 都市施設

1) 教育施設・子育て施設

明和町における教育施設（小学校）は3箇所、子育て施設は15箇所あります（複数施設が同一敷地内にある場合があります）。

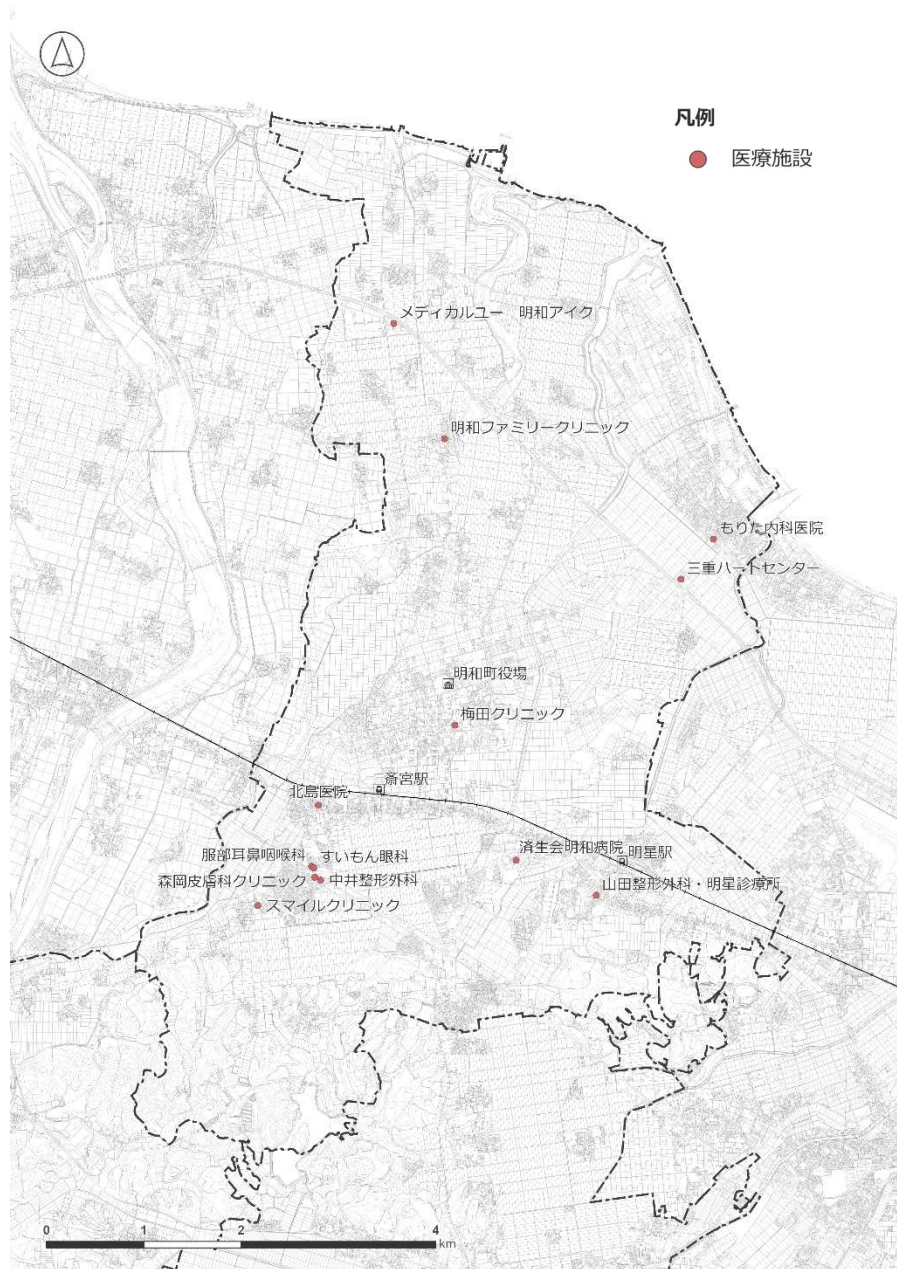


資料：明和町資料

図 2-15 教育施設・子育て施設位置図

2) 医療施設

明和町に、医療施設は13箇所あります。

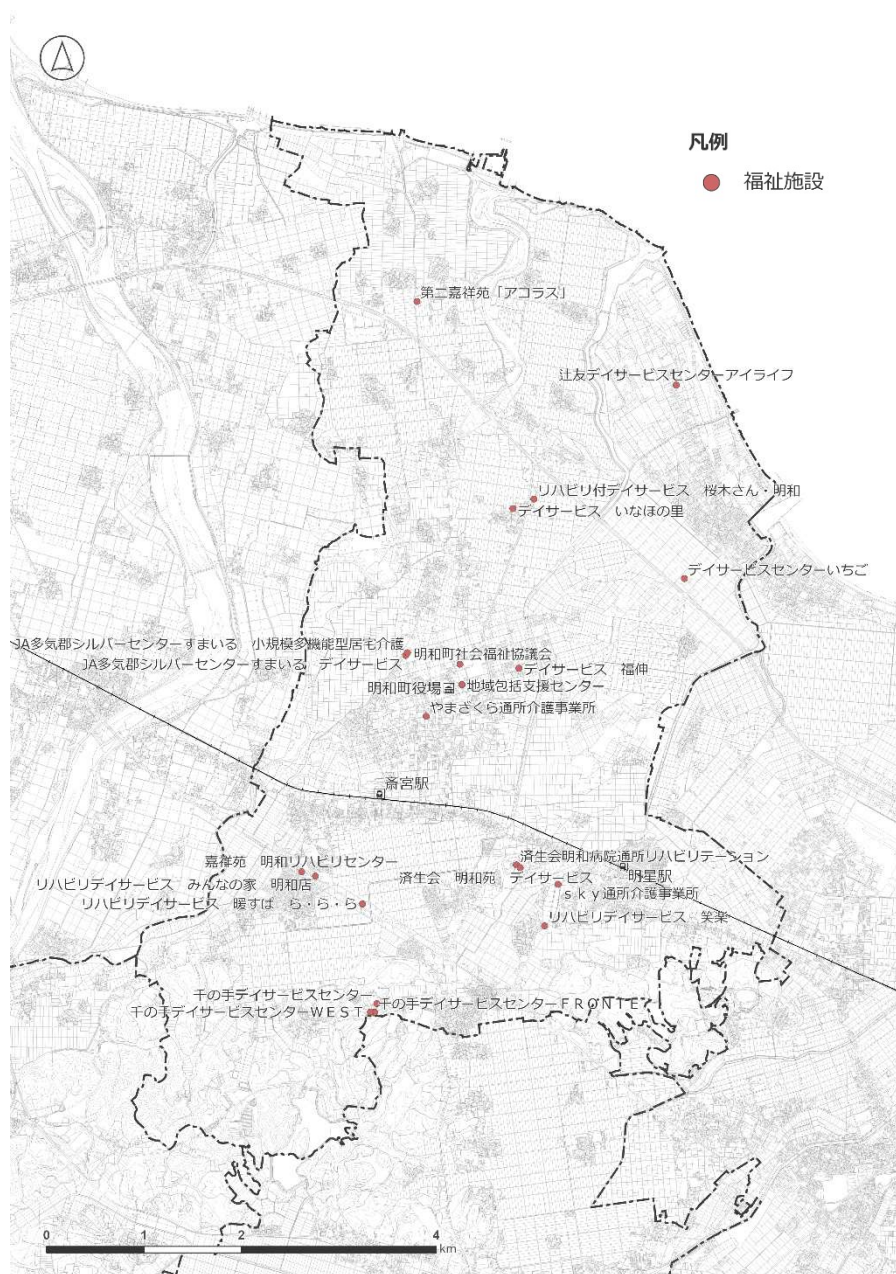


資料：明和町資料

図 2-16 医療施設位置図

3) 福祉施設

明和町内に、デイケア、デイサービス、介護予防支援、小規模多機能型居宅介護の福祉施設は21箇所あります。



資料：明和町資料

図 2-17 福祉施設位置図

4) 商業施設

明和町内に、商業面積が[※]3,000m²以上の商業施設は8箇所あります（同じ敷地内に複数店舗がある場合は1施設として計上）。また、コンビニエンスストアは9箇所あります。



資料：全国大型小売店一覧 2023 年版（コンビニエンスストア以外）

図 2-18 商業施設位置図

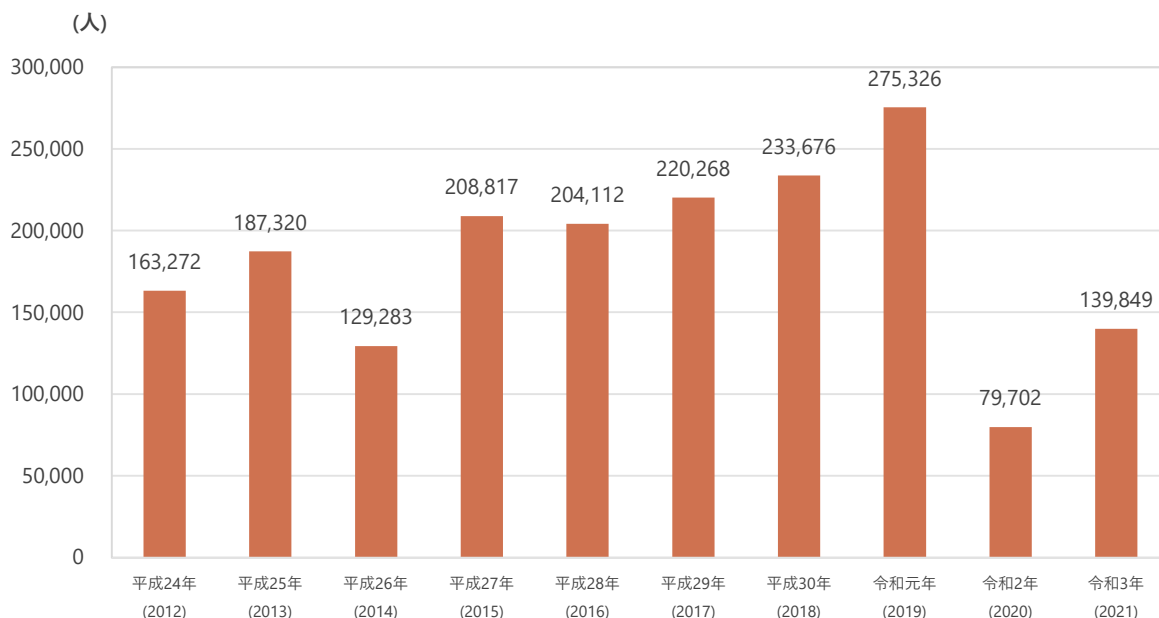
(5) 歴史・景観

明和町を代表する歴史・文化資源である「斎宮跡」は、昭和 54(1979)年に国の史跡に指定され、本町は「幻の宮」ともいわれる斎宮があった場所として全国にも知られています。

史跡斎宮跡内には、史跡公園「さいくう平安の杜」や斎宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館などが整備されているほか、史跡の南部には伊勢街道が通り、随所に往時の面影が残されています。また、大淀地区周辺では、斎王尾野湊御禊場跡や業平松といった歴史・文化資源が残るほか、海岸沿いには大淀ふれあいキャンプ場などのレクリエーション施設も整備されています。

史跡斎宮跡一帯は、平成 27(2015)年 4 月 24 日「祈る皇女斎王のみやこ斎宮」として文化庁の日本遺産に認定され、本町の知名度のさらなる向上が図られています。

こうした地域資源を活かしたまちづくりが順次進められ、本町を訪れる観光客は増加傾向にあります（新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、令和 2(2020)年は大幅に減少しましたが、その後回復傾向がみられます）。



資料：三重県ホームページ「観光レクリエーション入込客数推計」

図 2-19 明和町入込客数推移

「斎宮跡地区」の指定区域では、歴史的風致の積極的な保全を図ることとしています。指定区域における土地利用では、計画的に公有地化を進めています。具体的には史跡整備のために行う事業以外は現状変更を認めない「第1種保存地区」から、原則、土地の公有地化は行わず、遺構や環境を損なわない範囲であれば現状変更を認める「第4種保存地区」まで、段階的に4種類に分類しています。

また、斎宮駅南側は伊勢街道沿いに歴史的街並みが整備されています。一方で、空き家も多く発生しており、その活用方法が議論されています。

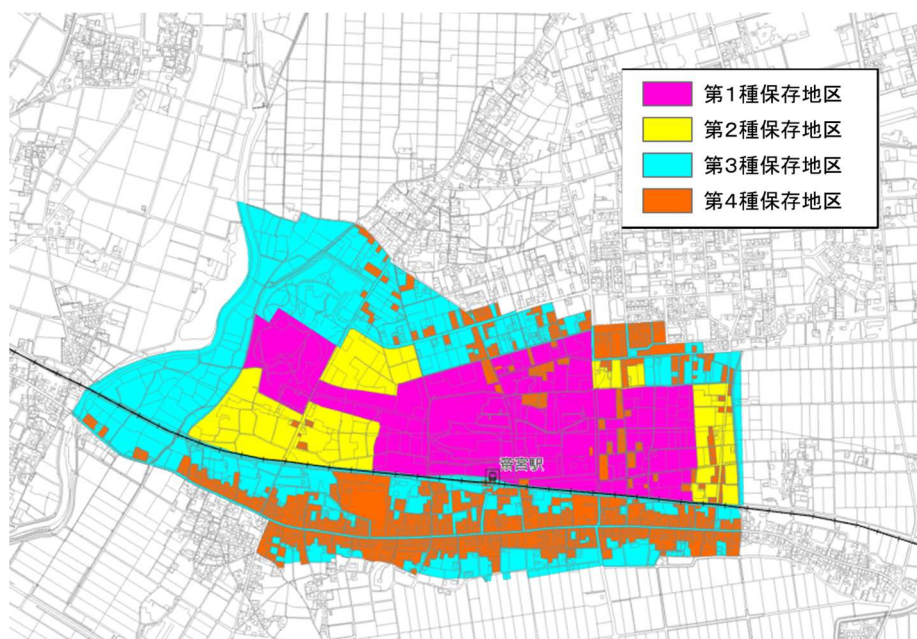


図 2-20 史跡斎宮跡の保存地区



図 2-21 斎宮駅周辺の伊勢街道の様子

(6) 災害

1) 洪水浸水想定区域

明和町ハザードマップによると、櫛田川の氾濫により、斎宮地区西部（祓川周辺）や上御糸、下御糸及び大淀の各地区では浸水が想定されています。特に下御糸地区沿岸部では、家屋の1階が水没するおそれのある3.0m以上の浸水が発生する可能性があります。

その他、祓川、笹笛川、大堀川の氾濫の場合でも、一部地域で浸水が想定されています。

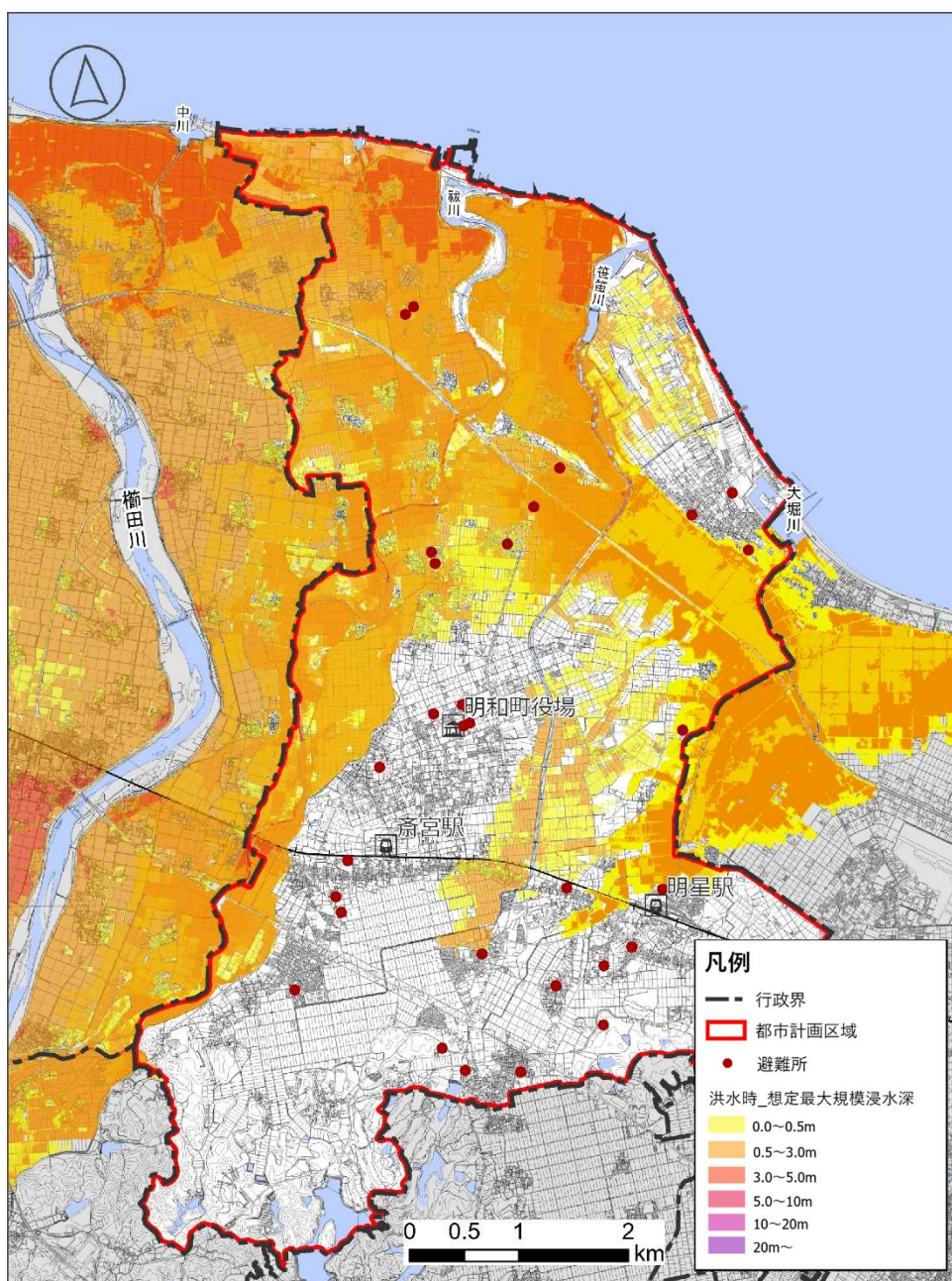
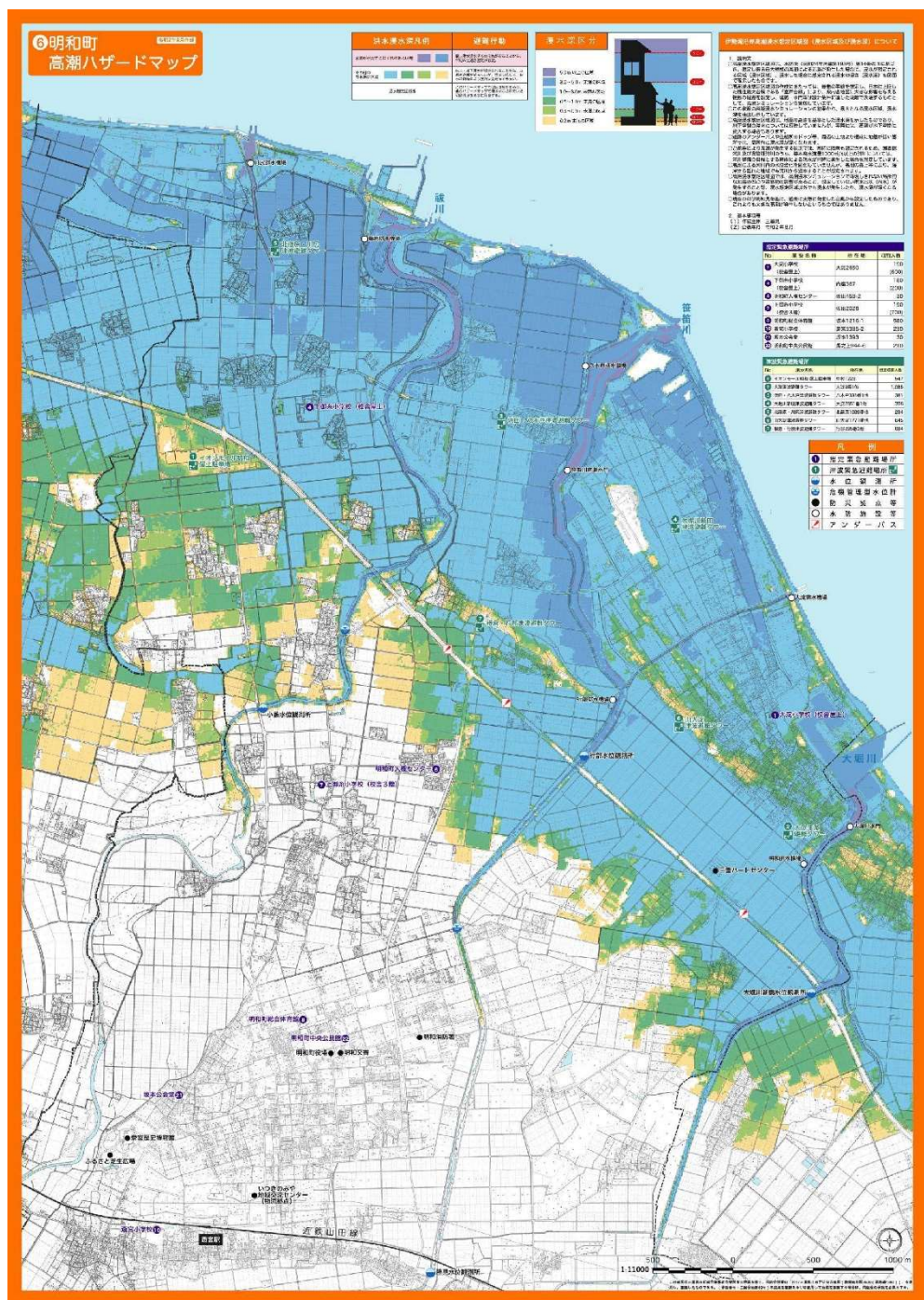


図 2-22 洪水浸水想定区域図（櫛田川、祓川、笹笛川、大堀川の氾濫の重ね合せ）

2) 高潮浸水想定区域

明和町ハザードマップによると、想定最大規模の高潮が発生した場合、沿岸部にかけて 3.0m 以上の浸水が想定されています。

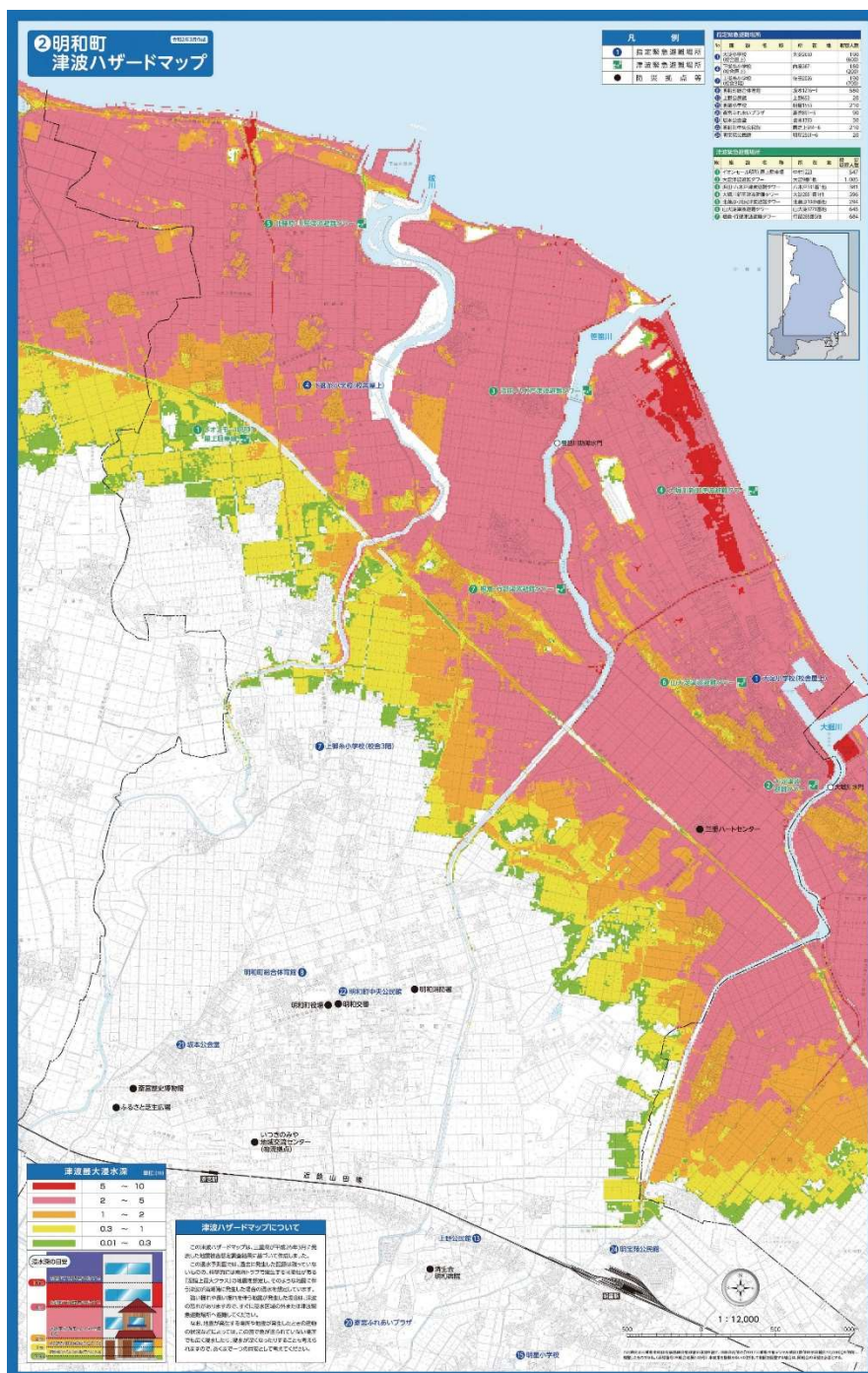


出典：明和町防災マップ 2020(高潮ハザードマップ)

图 2-23 高潮浸水想定区域图

3) 津波浸水想定区域

明和町ハザードマップによると、南海トラフ地震の理論上最大規模の津波が発生した場合、下御糸地区及び大淀地区の広い範囲で、人的・物的被害が甚大となる2.0m以上の浸水が予想されています。



出典：明和町防災マップ 2020(津波ハザードマップ)

图 2-24 津波浸水想定区域图

4) 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別区域

明和町ハザードマップによると、斎宮地区南部及び明星地区南部において、土砂災害警戒区域(イエローゾーン)及び土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)が点在しています。

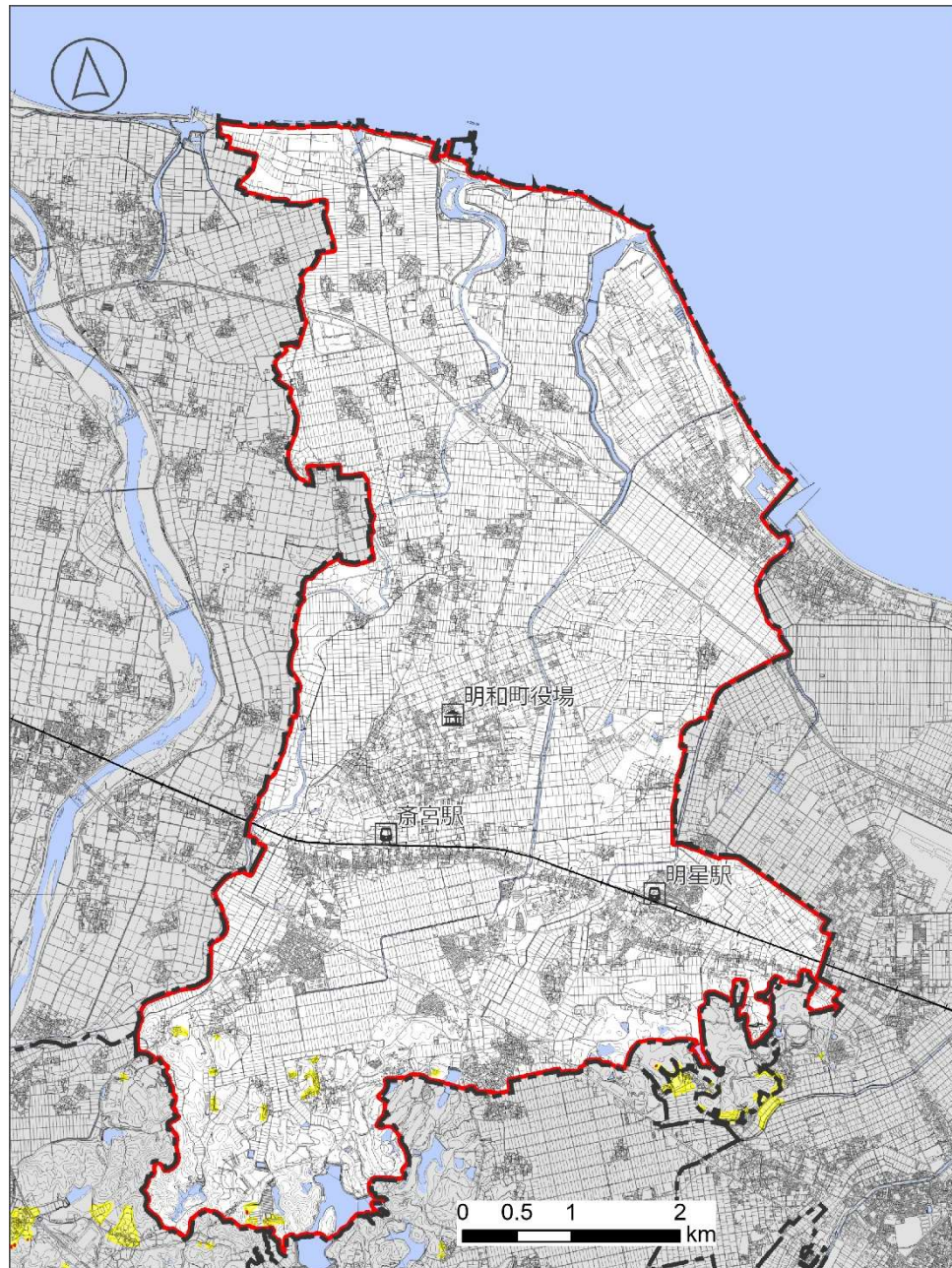


図 2-25 土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域

(7) 都市経営（歳入・歳出）

明和町における歳入の推移は上昇傾向にあり、令和2(2020)年度においては、新型コロナウイルス感染症対策のため、国庫支出金の割合が多くなっています。

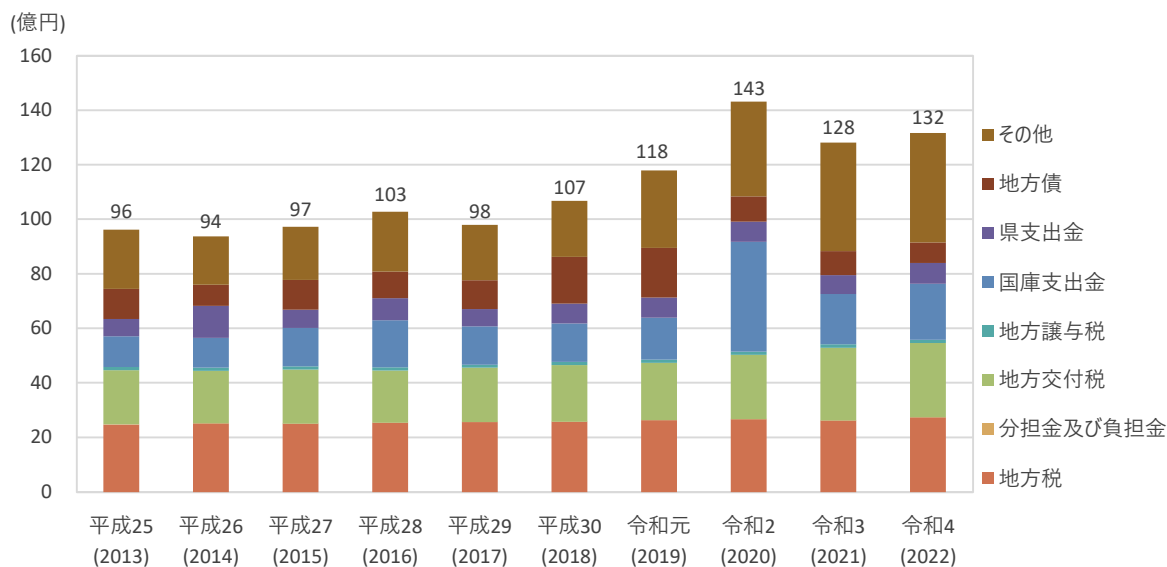


図 2-26 歳入の推移

明和町における歳出の推移も、歳入と同様に上昇傾向にあり、令和2(2020)年度においては、新型コロナウイルス感染症対策のため、補助費等の割合が多くなっています。

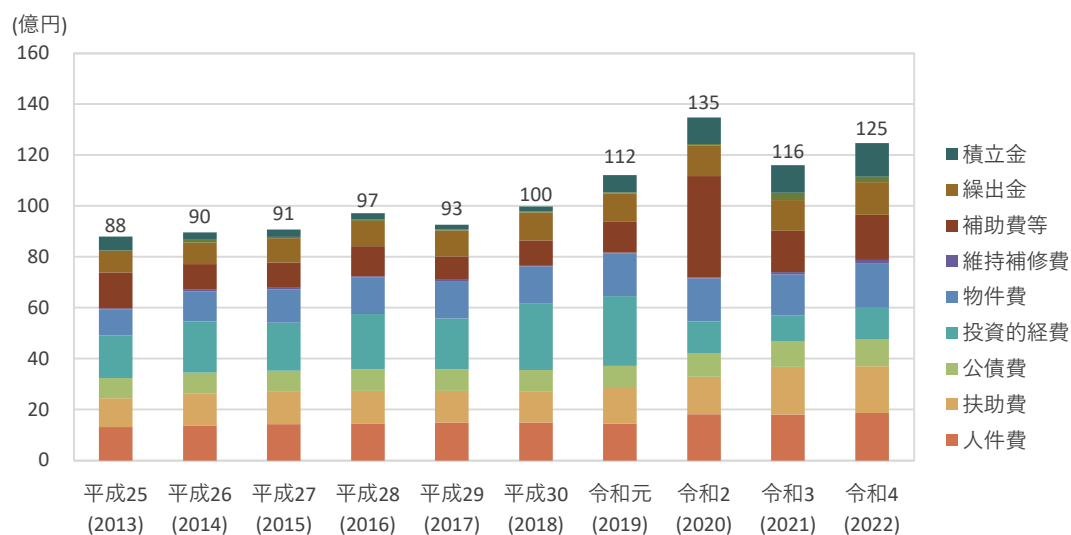


図 2-27 歳出の推移

第2章 課題の分析

このような状況の中、公共施設の更新及び長寿命化は大きな課題です。特に役場庁舎の建設は昭和35(1960)年であり、築65年以上が経過しています。その他にも、昭和52(1977)年から昭和57(1982)年にかけて建設した小学校が既に築40年以上となり、建替え時期を控えています。

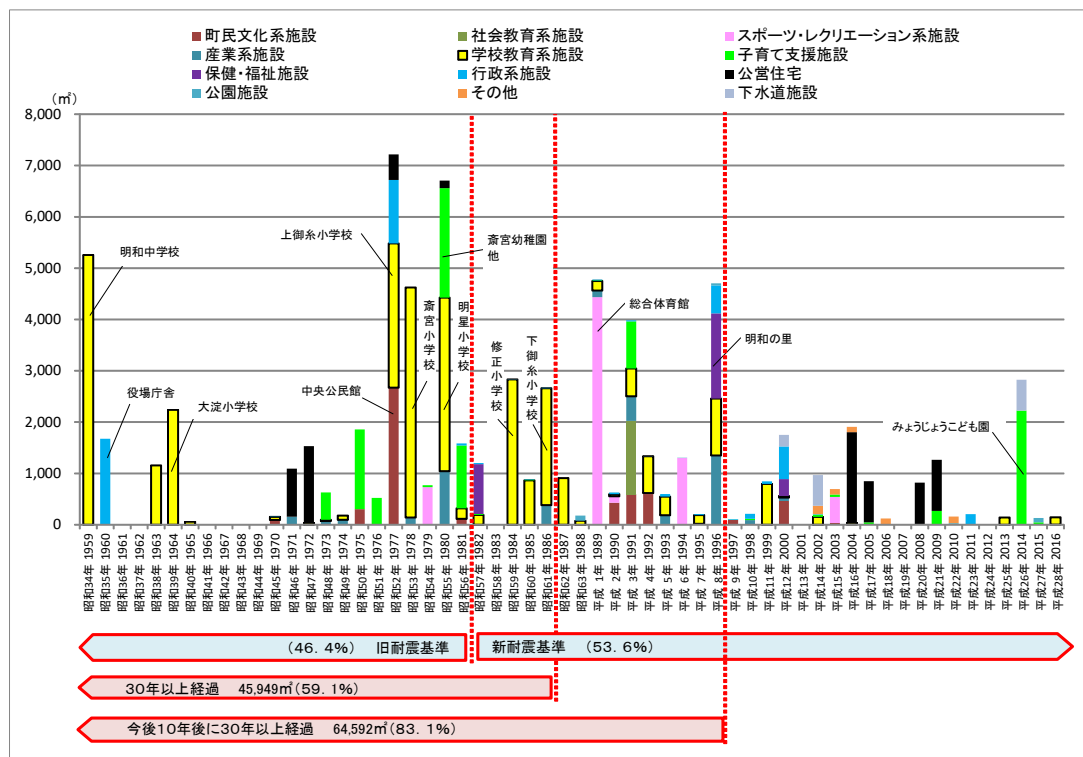


図 2-28 公共施設の建築年別延床面積

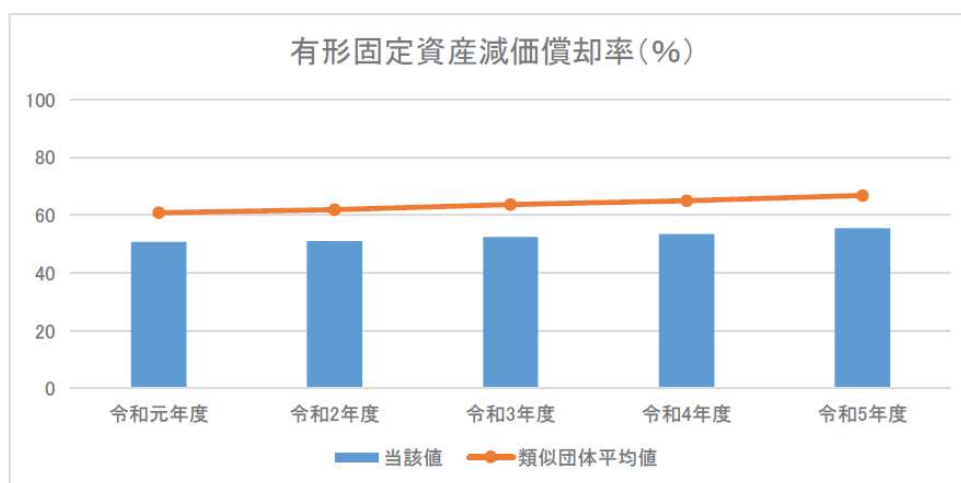
明和町公共施設等総合管理計画によると、建築物系施設を更新する場合、年間約 8.9 億円の費用が必要とされていますが、一方で、建築物系施設の投資的経費は年間約 1.7 億円で、乖離があります。

明和町が保有する資産（公共建築物等）の老朽度を示す指標として、有形固定資産減価償却率があります。明和町の有形固定資産減価償却率は、令和5(2023)年度で55.3%です。類似団体（人口と産業構造による）の平均値と比較すると低いですが、これは近年の中学校整備事業等によるものです。

表 2-3 明和町有形固定資産減価償却率の推移

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
減価償却累計額	21,824	21,693	22,605	23,524	24,447
有形固定資産 ※1	43,003	42,634	43,171	43,946	44,206
当該値	50.7	50.9	52.4	53.5	55.3
類似団体平均値	60.8	61.8	63.7	65.0	66.8

※1 有形固定資産合計－土地等の非償却資産÷減価償却累計額



出典 令和5年度 統一的な基準による財務書類に関する情報（総務省）

図 2-29 明和町有形固定資産減価償却率の推移

2-2. 即地的評価

(1) 即地的評価の内容

明和町内の即地的な特性について、地理情報システム（Geographic Information System: GIS）を用いて情報を重ね合わせ、評価しました。

評価は、100m メッシュ単位で行いました。評価結果は点数化し、点数が高いほど居住に適している土地とし、誘導区域を詳細に設定する上での根拠としました。具体的には、人口が増加傾向にある土地、駅や施設への距離が近い土地、居住に適した用途指定（特定用途制限地域）がなされている土地は高い点数とし、ハザードが大きい土地、農用地は低い点数としました。

なお、斎宮駅北側の第一種保存地区及び第二種保存地区は、建物の新設に厳しい制約があるため、評価の対象外としています。

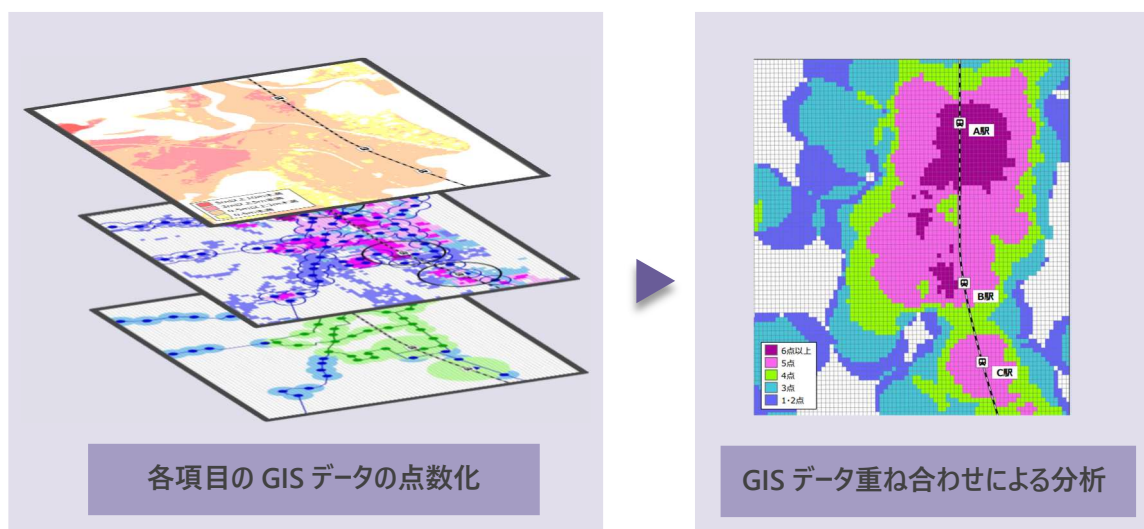


図 2-30 即地的評価の内容

(2) 評価項目及び表点数

評価項目及び評価点数は、以下の通りです。

表 2-4 即地的評価点数

番号	大項目	中項目	小項目	配点	満点	
1	人口	2050 年の人口 (100m メッシュ)		60 人以上：5 点	5	
				50 人以上 60 人未満：4 点		
				40 人以上 50 人未満：3 点		
				30 人以上 40 人未満：2 点		
				20 人以上 30 人未満：1 点		
				20 人未満：0 点		
2	交通	鉄道駅		400m 未満：3 点	3	
				400m 以上 800m 未満：2 点		
				800m 以上 1200m 未満：1 点		
				1200m 以上：0 点		
3-1-1	施設	子育て施設	認定こども園	400m 未満：1 点	1	
			400m 以上：0 点			
3-1-2			放課後児童クラブ	400m 未満：1 点	1	
				400m 以上：0 点		
3-1-3		子育て支援施設	400m 未満：1 点	1		
			400m 以上：0 点			
3-2-1		福祉施設	在宅系介護施設	400m 未満：1 点	1	
			400m 以上：0 点			
3-2-2			地域包括支援 センター	400m 未満：1 点	1	
				400m 以上：0 点		
3-2-3			病院・診療所	400m 未満：1 点	1	
				400m 以上：0 点		
3-3-1	商業施設	食品スーパー (1,000m ² 以上)	400m 未満：1 点	1		
		400m 以上：0 点				
3-3-2		ドラッグストア	400m 未満：1 点	1		
			400m 以上：0 点			
4-1	防災	津波	浸水深	0.3m 未満：3 点	3	
						0.3m 以上 0.5m 未満：2 点
						1m 以上 2m 未満：1 点
						2m 以上：0 点
4-2		洪水	浸水深 (最大浸水想定)	0.5m 未満：3 点	3	
						0.5m 以上 1m 未満：2 点
						1m 以上 3m 未満：1 点
						3m 以上：0 点
5-1	土地 利用	特定用途制限地域		居住環境地区：2 点	2	
				特定沿道地区：1 点		
				幹線沿道地区：1 点		
				その他：0 点		
5-2		農用地		農用地：0 点	1	
				その他：1 点		
				合計	25	

(3) 評価結果

即地的評価の結果、明和町役場周辺、斎宮駅周辺から金剛坂周辺、明星駅周辺の点数が高くなっています。他にも、有爾中交差点周辺、イオンモール明和周辺で点数が高い箇所があります。

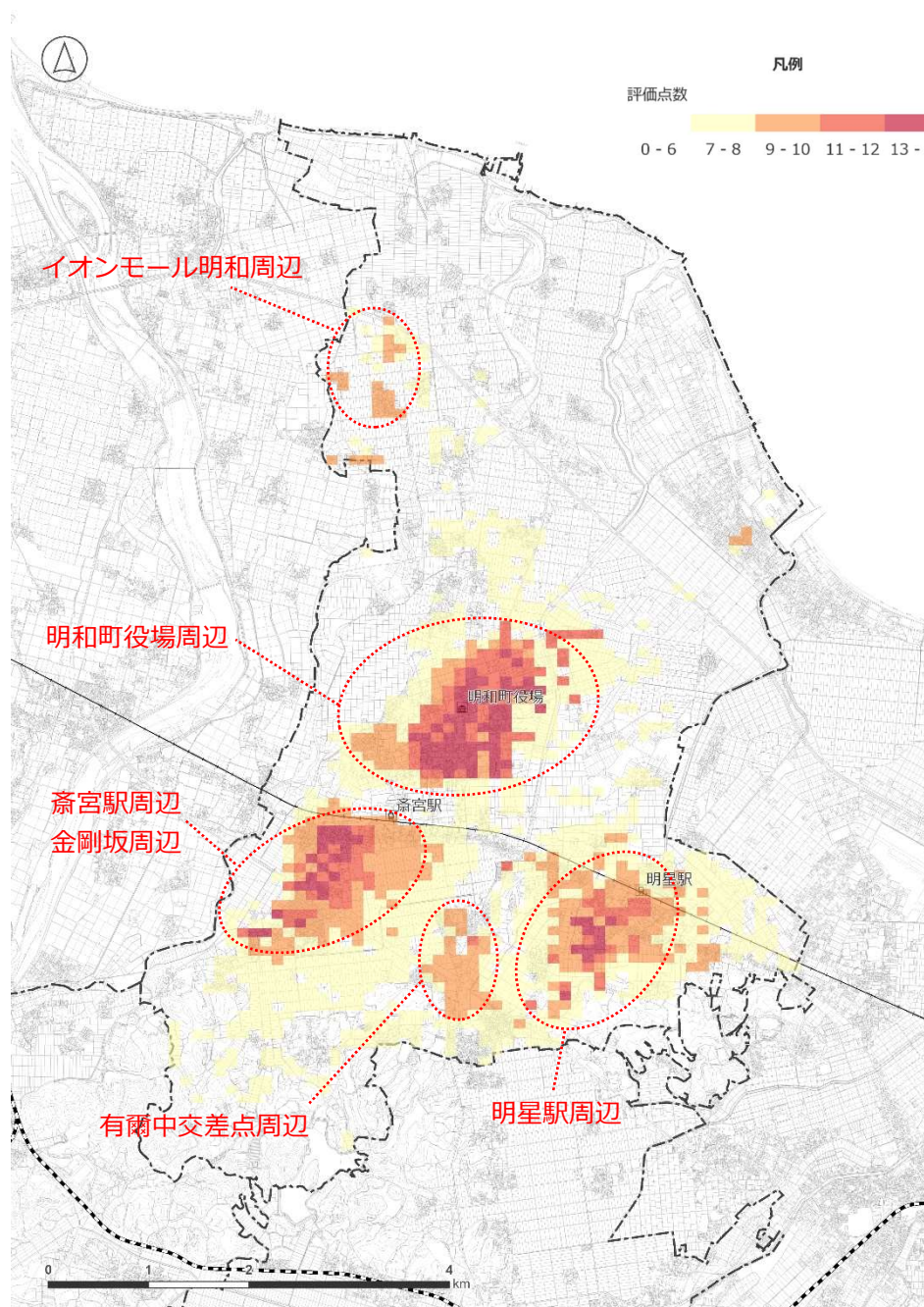


図 2-31 明和町全体の即地的評価結果

2-3. 解決すべき課題のとりまとめ

(1) 明和町における現状のまとめ

「2-1.明和町の現状」及び「2-2.即地的評価」の結果について、以下のとおり項目別に取りまとめました。

人口

■平成 22(2010)年をピークに少子高齢化が今後も進み、令和 32(2050)年人口は、17,883 人と予想されています(7 ページ参照)。

■令和 32(2050)年の地域人口は、明和町役場周辺に集中する一方、斎宮駅、明星駅、金剛坂、大淀地区周辺では、令和 2(2020)年と比較して 50%未満になる地区も存在すると予想されます(10 ページ参照)。

■明和町において子育て世代にあたる 30、40 代の(1980 年代、1990 年代)人口は、増加傾向です(8 ページ参照)。

■住民アンケート(資料編参照)によると、明和町への転入者のうち、3 割前後が交通の利便性、日常生活の利便性を転居理由にしています。

土地利用

■用途地域を設定していませんが、特定用途制限地域を設定し、立地を制限しています(15 ページ参照)。

■まとまりの無いミニ開発により、営農環境や田園景観の悪化、既設の排水施設への負荷増大を招いています(資料編参照)。

■地価の動向は、直近 30 年間で下落傾向です(資料編参照)。

居住

■住民アンケート(資料編参照)によると、居住及び周辺の自然環境への満足度は比較的高いです。

■宅地開発事業は、平成 28 年度から令和 2 年度までに 60 事業が実施され、約 22.8ha が整備されました。開発場所は明和町役場や金剛坂周辺に集中しています(14 ページ参照)。

■住宅戸数は近年上昇傾向である一方、空き家数は平成 25(2013)年から減少傾向です(16 ページ参照)。

交通

■高校が町内にないため、明和町外の高校へ通学しています。移動手段は、鉄道が多いです(資料編参照)。

■通勤において、松阪市及び伊勢市との相互の移動が発生しています(11 ページ参照)。住民アンケート(資料編参照)によると、自家用車の利用が最も多く 80%以上を占めています。その他の移動目的でも、自家用車の利用が大半です。

■明和町には、鉄道(斎宮駅・明星駅)と町民バス(定時定路線)があります(18～20 ページ参照)。

■住民アンケート(資料編参照)によると、町民の交通に対する満足度は低い傾向にあります。

都市施設

■子育て施設、福祉施設は、明和町役場、斎宮駅、明星駅、金剛坂周辺に集中しています(21～23 ページ参照)。

■商業施設は、幹線道路沿いに集中する一方、駅周辺には乏しい状況です(24 ページ参照)。

■住民アンケート(資料編参照)によると、買物における施設への移動について、徒歩または自転車移動の許容範囲は 400m 以上であると回答した町民が過半数を占めます。

■住民アンケート(資料編参照)によると、医療・福祉施設までは遠いと感じる町民が一定数います。

歴史・景観

■史跡斎宮跡は、明和町の観光資源としての役割を果たしています。令和元(2019)年には明和町に約 27 万人以上の観光客が訪れています(25 ページ参照)。

■都市再生整備計画の斎宮跡周辺地区に含まれる斎宮駅南側の伊勢街道沿いは、古くからの街並みを形成しています(25 ページ参照)。

■歴史的建造物等の空き家が増加しています(26 ページ参照)。

■住民アンケート(資料編参照)によると、「歴史・施設」に魅力や誇りを感じている町民が多いです。

災害

■洪水浸水想定区域図(27 ページ参照)によると、明和町西部から大淀地区にかけて、洪水で 3m 以上の浸水が想定されています。

■高潮浸水想定区域図(28 ページ参照)によると、沿岸部では、高潮で 3m 以上の浸水が想定されています。

■津波浸水想定区域図(29 ページ参照)によると、津波では、明和町沿岸部に 2m 以上の浸水が想定されており、甚大な被害が予想されます。

■イオンモール明和が一般国道 23 号沿いにありますが、津波浸水想定区域図(29 ページ参照)によると、津波の浸水想定区域に入っています。

都市経営

■高齢化の進展に伴い、扶助費の割合が一層増加することが想定されます(31 ページ参照)。

■明和町役場は、築 65 年以上経過し、老朽化が進行しています(32 ページ参照)。

■公共施設等の更新等費用の推計結果より、施設維持のための費用が不足すると想定されます(32 ページ参照)。

(2) 解決すべき課題

明和町の現状及び即地的評価を踏まえ、解決すべき課題を以下の通りまとめました。

人口において解決すべき課題	関連分野
■ 交通利便性の高い鉄道駅周辺であっても人口減少が進むと想定されるため、鉄道、駅周辺への人口集積を図る必要があります。	居住 交通
■ 現在の子育て世代が、今後も明和町で暮らしてもらえよう、子育て支援の充実を図る必要があります。	都市施設
土地利用において解決すべき課題	関連分野
■ まとまりの無い開発を防ぐため、居住を望ましい地域へ誘導するための施策が必要です。	居住
居住において解決すべき課題	関連分野
■ 宅地開発が駅から遠い位置であり、従来の居住環境の良さを活かしつつも、交通利便性との整合を図る必要があります。	交通
交通において解決すべき課題	関連分野
■ 自家用車を運転できない町民(高校生以下、高齢者等)のために、移動手段の確保が必要です。	
■ 高校生を中心に町外への移動が発生しており、町外への鉄道を利用しやすい環境整備が必要です。	
都市施設において解決すべき課題	関連分野
■ 福祉施設については、今後町民が居住している地域から近い位置への誘導が必要です。	都市経営
■ 商業施設については、駅周辺への誘導が必要です。	交通
■ 町役場周辺は今後も人口維持が見込まれること、町役場が老朽化している点を踏まえ、町の中心機能のさらなる充実を図る必要があります。	都市経営

歴史・景観において解決すべき課題	関連分野
■ 斎宮駅南側は、史跡斎宮跡周辺の歴史的建造物等の保全を図りつつ、立地の良さを活かした居住及び都市機能の誘導が必要です。	交通 居住 都市施設
■ 史跡斎宮跡周辺は、地域住民だけでなく、来訪者によっても魅力がある地域とすることが必要です。	交通 都市施設

災害において解決すべき課題	関連分野
■ 町北部では津波・高潮、河川沿いでは洪水による浸水リスクが高い地域が広がっており、リスクの回避もしくは低減のための対策が必要です。	
■ イオンモール明和は町最大の商業施設ですが、津波浸水想定区域に含まれており、対策が必要です。	都市施設

都市経営において解決すべき課題	関連分野
■ 公共施設及びインフラの適切な維持・管理・更新等を図る必要があります。	都市施設